2023/10/28

熱海ブルーノ・タウト連盟　高崎研修会報告

原田　英利(記)

1. はじめに

熱海ブルーノ・タウト連盟(以下、「ABTL」という。）との出会いは、2022/2/11(金・祝)朝日新聞の「別荘文化の展開・発信探る」という記事からでした。「タウト塾@熱海」の連続講座に引き込まれ、およそ１週間をかけて、ほぼ全てを視聴したことから始まります。ABTL 代表の矢崎英夫氏と連絡がとれ、即入会を申し入れしています。

自身は 2018 年末に定年退職して、お気楽契約社員となり、将来仕事を離れることになってからの目標探しに、「東京ヘリテージマネジャーの会」や「DOCOMOMO Japan」「日本ナショナルトラスト」などの活動を通じて少しだけ準備をして来ましたが、一つの名建築、「旧日向別邸」を中心に活動をしている視点にインパクトがありました。

ABTL の例会は平日開催のため、参加出来ず「幽霊会員」となっていました。唯一「旧テーテンス邸」(前川國男設計であることが判明）見学会で、合流することが出来ました。今回、会のメンバーとお会いし活動できることを楽しみにしていました。

2. 少林山達磨寺と洗心亭

「つる舞う形の群馬県」群馬県民なら知らない人がいない「上毛かるた」の代表札です。少林山も「縁起だるまの少林山」と読まれている名所です。(図-1)

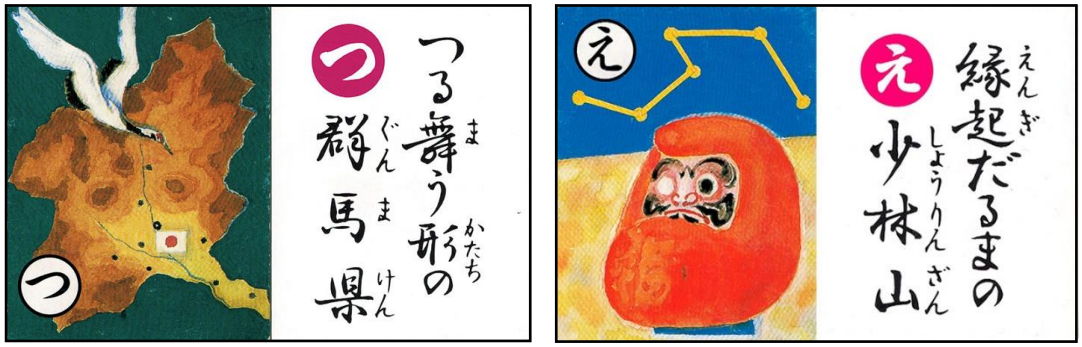

図-1 上毛かるた（※1）

本堂「霊符堂」(写真-1）にお参りのあと、住職の広瀬正史氏に寺の縁起とタウトの遺品が残る展示室で詳しい説明を受けました。

1697 年(元禄十年)、前橋城主酒井公が裏鬼門を守る寺として、水戸光圀公の帰依された中国僧・心越禅師を開山と仰ぎ、弟子の天揪(てんしゅう)和尚を水戸から請じて開創されたとのこと。

不動のもの「北極星」が人間世界の上の天の中心に位置し、すべての存在の中心が北極星であることから、北極星信仰が始まり、この北極星を見つけるのには、北斗七星か

写真-1　霊符堂

らとなるので、二つを合わせて『北斗星』とあらわされる。これを神格化した「北辰鎮宅霊符尊」を祀り、過去･現在･未来三世の運勢を支配し、吉凶禍福(良いことと悪いこと)・家相方位を司る霊神で、善星(良いこと)を招来して幸福を守護し、悪星(悪いこと)を除いて悪事災難を消滅するとのことです。
(達磨寺パンフレットより引用)

北斗星は、北極星(亀)と北斗七星(蛇)一体のものと考えられ、この亀と蛇が絡まった姿が、高松塚古墳で有名となった「玄武」として表現されているそうです。カシオペア座が仲間はずれでちょっとかわいそうな気がします。

タウトの経歴などは、会の性格上詳述するつもりは有りませんが、展示室の資料に関して少し触れたいと思います。

ブルーノ･タウトは、1880 年 5 月 4 日(明治 13 年)哲学者カントと同郷のドイツの東プロセイン･ケーニヒスブルクで生まれました。尊敬するカントの墓碑に刻まれていた、『わが頭上の星の輝く空とわが内なる道徳律』という言葉を直筆の短冊（図-2）にしたためています。いわゆる日本通あったタウトは、禅宗寺院達磨寺の教義と実践に共感していたものと推察します。

この他にも、煙を噴き上げる浅間山を描いた三幅対の短冊もあり、芸術家としての端緒を見ることが出来ました。

離日の際に、『･･･私の骨は少林山に埋めさせていただきたい』と語られ、亡き後タウトの遺志を果たすため、エリカがデスマスクを少林山に納めたとのこと。今回、この端正なマスクも拝見することが出来ました。

タウト筆の短冊「わが頭上の星、わが内なる道徳律」

図-2　タウト色紙

順序は違っていますが、「洗心亭」へ。

地元民として、外観と建具のすき間から内部を覗き見る形での見学は、過去 3 回程度経験しています。今回は高崎メンバーの配慮により「お掃除ボランティアの日」と調整いただき、念願の建屋内見学が実現しました。

写真-2　洗心亭_東側外観

写真-3　6 畳和室

写真-4　4.5 畳和室

1934 年 8 月 1 日(昭和 9 年)よりエリカと共に、2 年 3 ヶ月を過ごした 6 畳と 4 畳半の狭く簡素ながら「粋」な建物です。

当時流行であったジャポニズム、アールヌーボーに影響されて日本に関心を持ち、鴨長明の「方丈記」や松尾芭蕉の「奥の細道」を読み、池大雅の「十便図」を是とする、日本特有の「わび」「さび」を心酔していたと聞きます。周囲の環境が住んでいた「コリーン」や「ダーレヴィッツ」に似ていたとも言われており、心が清らかになる場所「洗心亭」をとても気に入っていたと。

和の便所、竈(へっつい)や風呂の形跡を見るに、西洋人にとって本当はとても大変な思いで生活していたのではないかと思いました。便所と一番格の高い床の間を隔てる壁がとても薄いことなどをタウトが指摘する記事も記憶にあります。

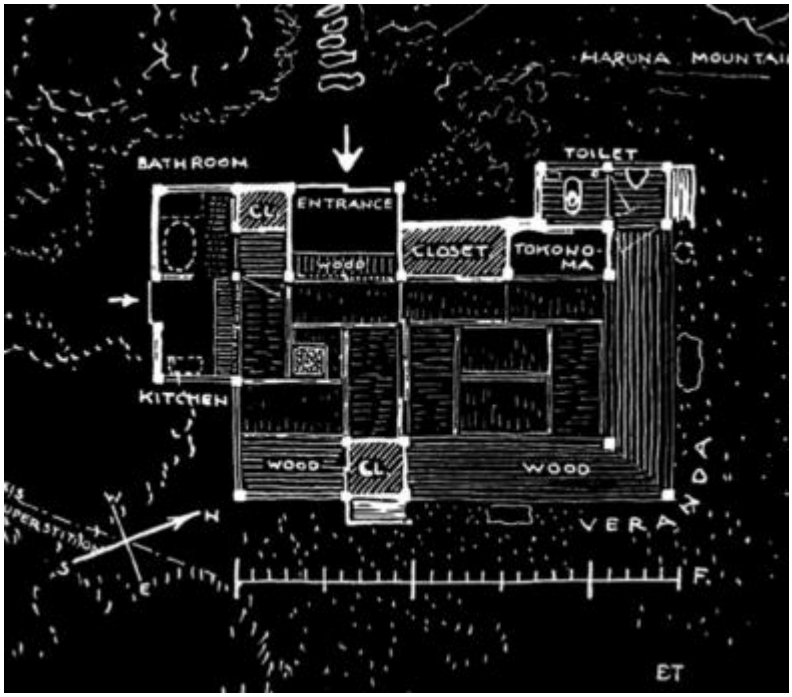

図-3　洗心亭平面図

6 畳和室には炉が切られ、エリカが点てた茶を楽しんでいたに違いありません。また 4 畳半の和室には、自在鉤と囲炉裏、開閉可能な書見台は、多くの作品デザインや書籍の執筆が行われた仕事場でもありました。開放的な縁からの榛名の眺望は方向違いで期待できなかったと思われますが、和の要素が絶妙に、機能的に仕掛けられている名建築といえます。

現在、県指定の史跡として、いつでも住み始められるほど保存状態が良く、過去 3～4 回修理の手が入っていると聞きます。先述の「お掃除隊」の活躍も維持管理にはとても大切な役割を果たしていると思われます。

2 人と時空を共にしてみて、末永く残っていて欲しいと心から願いたい建物です。

洗心亭の南東、一段上の丘に「ICH LIEVE DIE JAPANISCHE KULTUR 」(私は日本の文化を愛す)というタウトが少林山に残した言葉の碑があります。

桂離宮に深い感銘を受けた話は有名ですが、この機会に改めて「日本の美の再発見」を通読しました。

「日本建築史の概観」(P-27)があらためて興味深く、伊勢神宮から寺院、茶文化経由で桂に至る正統と、金色堂から将軍建築を経て東照宮に至る対比を示しています。

私たちはもっと深く日本文化を知り、愛する気持ちを大切にしないといけないと思う次第です。

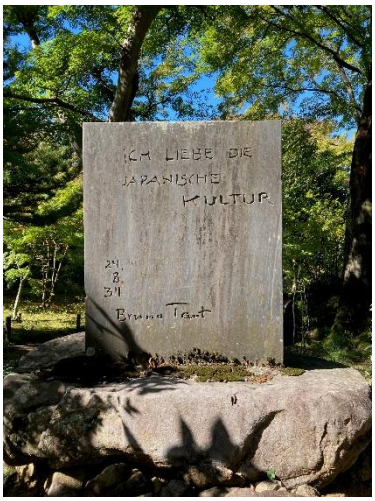

写真-5　タウトの碑

【※1】縁起だるまの少林山の北斗星は、星 6 つしかありません。星が 1 つ足りないのは、ひとりひとりが 7 つ目の輝く星になって欲しいという願いが込められているそうです。

3. 高崎美術館と井上房一郎邸

最後の訪問先は高崎市美術館（時間の関係で、「井上八重子展 私の赤」は、恐縮ながら鑑賞を省略しました。次回企画展「生誕 140 年竹下夢二のすべて展」は改めて訪問させていただきます。）に隣接する『旧井上房一郎邸』です。

写真-6　旧井上房一郎邸 南東外観

建物は、麻布笄町に 1951 年(昭和 26 年)に建てられたアントニン・レーモンドの自邸兼事務所を「うつした」建物として知られています。いわゆるレーモンドスタイルとして、①柱や登り梁を二つ割丸太で挟む「挟状トラス」、②杉材縦板貼りの外壁、③地震対策の軽量鉄板屋根、④深い軒、⑤土間 Con に直床仕上げ、⑥無地ベニヤ板に真鍮釘の内壁などが紹介(建物解説パンフより引用)されています。

写真-7 居間

写真-8 笄町に無かった和室

洗心亭とは裏返し。和の生活になじんだ当主や婦人は、洋装ベースの生活にどう馴染んでいったのでしょうか。想像するだけで楽しくなります。

ここで、井上、レーモンド、タウトの主役 3 人の出会いに触れる必要が有ります。まめなタウトの日記によれば、1935 年 8 月 5 日(昭和 10 年)に高崎から軽井沢を訪れ井上の伝統工芸品店「ミラテス」でレーモンドに声を掛けられたそうです。

若かりし井上 36 歳、レーモンド 46 歳、タウト 54 歳だったとのこと。おおよそ 10 歳違い、かなり性格や考え方の違う（私見）二人の先輩に、この家主が相当苦労したことを勝手に想像した次第です。

写真-9 パティオ

構造架構のトラスが、随所に邪魔しに来ているのが、各所で見せ場になっています。日本人の感覚では和室の中柱や(写真-8)、パティオ(写真-9)の真ん中に柱を持ってくることなど想像も出来ませんが、シレッと配置しているのが大胆です。

建物の解説と案内を、市美館長で一級建築士の塚越 潤氏にしていただきました。同氏は旧日向別邸にも傾倒され、自ら矩計の実測をして展開図を再現し精緻な模型を作成されています。

写真-10 館長室で集合写真（後列左が筆者、3 人目が塚越館長）

【撮影／水之京子氏】

集合写真の真ん中に、旧日向別邸の模型があります（館長室にお邪魔し、家具類を一時移動して撮影されています)。な、なんと取り外し式になっており、内部も俯瞰が可能になっています。メンバーからは歓声があがりました。その精緻さや愛される建物への共感でしょうか。

写真-11　日向別邸 日本間･洋間

写真-12 社交室

傾斜地に建つ、旧日向別邸が模型ではリアルに理解が可能となります。塚越館長は、模型を見ながら「宝石箱」のような建築だ！と、おっしゃられたのが印象的でした。

タウトの貴重な建築作品に多くのファンが居て、応援されていることに感慨を覚えた次第です。

4. おわりに

今回の ABTL 高崎研修会は、地元高崎の前島美江氏、高屋敷直子氏の事前段取りを含め、移動手段を提供いただいたメンバー各位の献身的なサポートにより完遂出来たこととお礼申し上げます。

ランチでは LABI 高崎の「しゃぶしゃぶ金光」で、昼から軟らかめに美酒一杯いただき、上州牛と上州豚をダブルで楽しむことが出来ました。事前にランチ検索もしていただいたことをお聞きし、重ねて多謝！多謝！です。

今回、不勉強で稚拙な報告書をしたためることになりました。お許しください。
幽霊会員が半歩踏み出しました。次回はもう少し進化した一筆を書けるよう精進することをお約束します。再見！

以上